

(市川市PTA連絡協議会研究大会報告書)

第7分科会 テーマ小学・地域ぐるみの防犯2 司会 PTA連絡協議会理事(中国分小)

参加小学校 (順不同)

鶴指小学校・中山小学校・中国分小学校・新浜小学校・平田小学校・富貴島小学校
福栄小学校・二俣小学校・真間小学校・南行徳小学校・南新浜小学校・宮久保小学校
宮田小学校・妙典小学校・八幡小学校・百合台小学校・若宮小学校

<発表内容のまとめ>

各小学校の取り組み(共通でみられた取り組み)

A 登下校時の交通指導や旗振り

保護者(当番制)に、通学路の要所に立ってもらい交通指導や旗振り。

他に、自治会等の地域ボランティアに協力してもらう地域もある

旗を全家庭に配布する学校もある

自転車に「パトロール中」のプレートで、見回りを実施している。

職員による、青パトによるパトロール。

B かけこみ110番

地域に協力して頂ける家や、施設にプレート設置

各学校の配布率は、高いレベルにある。

C 安全マップの作成

危険箇所や、過去の犯罪発生場所を記載したマップを作成している。

危険箇所を写真に取り、マップにいれて全員に配布している学校もある。

マップではないが、事件が起きた時にプリントを配布している。

D その他

来校時の保護者用ネームプレート着用の徹底。

全児童に防犯ブザーを配布している学校もある。

スクールゾーンへの進入違反車への取り組み(毎日ではない)

緊急時の連絡システムの向上(メールやホームページ、ブログ等)

<議題>

各小学校では、地域などと協力しながら、パトロールや、あいさつ運動などの取り組みが行われています。

繁華街や住宅街など、地域での環境差などの課題はあるものの、前向きに実施されている。

しかし、それぞれの小学校では、実施はしているが、体制の見直しなどの

共通課題を抱えているのが、現状です。

第7分科会では、「かけこみ110番」と「防犯マップ」の2点について進めることにしました。

① かけこみ110番

取り組みは、ほぼ全校で実施されているが、本当に活用されているのか？

お守り札的で、実際は活用されていないのでは？

プレートがどこに設置しているのか、わからない？

貼ってあっても、在宅でなかったり、引越しの遺物だったり…？

学校側は、活用を力を入れているが、受け手側の認識が不透明？

児童としては、顔見知りではないので、入れない。

保護者にも、近所付き合いがない。

◎掲示は進んでいるが、児童と協力宅の意識レベルが向上できていない！

対策！ かけこみ110番 ウォークラリー

授業の一環などで、帰る方向が一緒の異学年で組みを作り、

先生、保護者もあわせて、プレートのついている家を探し訪問する。

※事前に、協力宅にも連絡がいくので、訪問時にあいさつができ、お互いを認識できる。

犯罪時だけでなく、トイレやケガの時にも使えるようになる。

② 安全マップ

マップは作っているが…実際に、現場確認はしていない？

高学年は、大体わかるだろうが、低学年には工夫しないと理解出来ない。

ただ、作成、配布だけでは周知に不十分では？

学区別に分かれているが、隣接地域についても必要では？

子供の認識、保護者の認識、学校の認識、かみ合っていない。

過去の情報はあがるが、事件が絶えない。

◎犯罪は動いている。「作って終わり」では、意味が無い。

対策！ 安全マップの共同作成、IT化での配信

地域の目、子供の目、保護者の目で、作成することにより意識の向上を図る。

地域、地区、学区を越えた作成を目指す。

常に更新される生きたマップ作りのために、ホームページ（IT化）などでリアルタイムな情報提供。

まとめ かけこみ 110 番も安全マップ作りも、共通して言えること。

地域、職員、保護者の連携による取り組みをする。

地域差や保護者の温度差があってはならない。

地域のイベントに参加して、保護者と町ぐるみの意識やモラルの向上を目指す。

※ しかし、犯罪は、いつ、どこで起きるかわからない。

子供を守り過ぎることよりも、

子供たちが、自ら自分を守る力を育てることが大切！

子供たちの自己防衛に対してスキルアップも必要！